

「**がん検診**」は必要です!!

コロナ下でも



日本対がん協会 会長

垣添 忠生

大腸がんと腎がんを自覚症状のない時期に早期発見し、手術を受けて元気です

コロナでも 変わらぬ習慣 がん検診

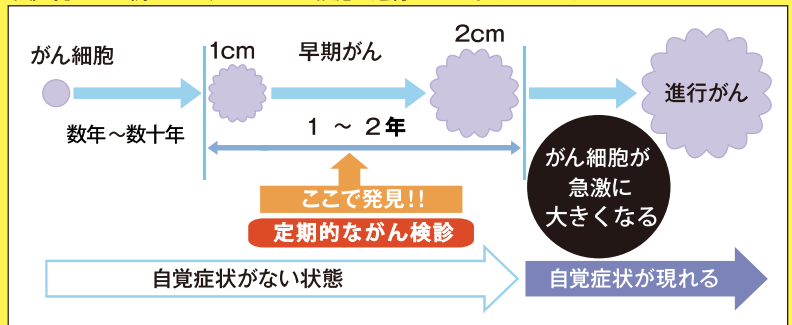
公益財団法人日本対がん協会 2021年度がん征圧スローガン

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で
検診の受診者は激減しています

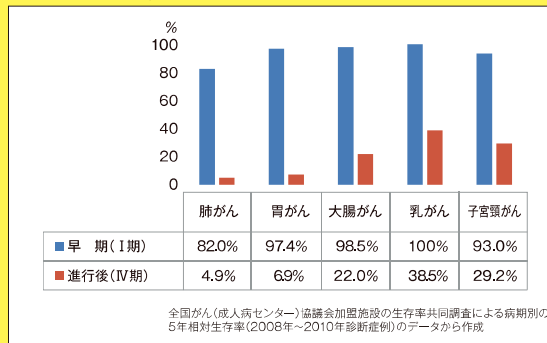


一般的に、早期発見ほど治り、発見が遅れるほど治療が困難になります。コロナは防いだけれど、がんが進行していた、では本末転倒です。

図) 乳がんを例にした、1つのがん細胞が進行がんになるまでのイメージ



病期による5年生存率の差



早期発見のカギは、定期的ながん検診を受けること。貴重な機会を、どうか逃さないください。



イラスト:小澤 遥 (駒込高校・美術部)



公益財団法人

日本対がん協会

公益財団法人日本対がん協会

大分県 福祉保健部 健康づくり支援課
☎ 097-506-2674

検診は怖くありません

コロナ下でも

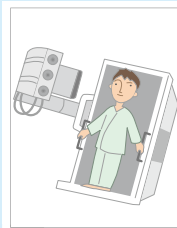


どんな「がん検診」があるの？

肺がん、胃がん、乳がん、子宮頸がん、大腸がんの5つのがんは、がん検診によって死亡率が低下することが科学的に証明されています。



検診機関は「密」の回避、検温や消毒などの感染防止策をとっています。



胃がん検診
胃 X 線検査
胃内視鏡検査

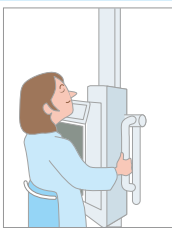
対象年齢:50歳以上
受診間隔:2年に1回

※当分の間、胃X線検査については40歳以上年1回実施も可



大腸がん検診
便潜血検査

対象年齢:40歳以上
受診間隔:年1回



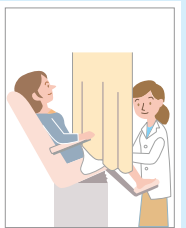
肺がん検診
胸部レントゲン
喫煙者は併せて
喀痰検査

対象年齢:40歳以上
受診間隔:年1回



乳がん検診
マンモグラフィー検査

対象年齢:40歳以上
受診間隔:2年に1回



子宮頸がん検診
細胞診

対象年齢:20歳以上
受診間隔:2年に1回

肺がんでしたが、まだ小さい子どもの勉強をみたり一緒に遊んだりしたかったので、早く見つかってよかったです。
(40代・男性)



早期の胃がんが見つかりましたが、内視鏡治療ですみました。これからも夫と食べ歩きの趣味が楽しめそうです。
(60代・女性)

どうしたら受けられるの？

- お勤めの方やそのご家族
⇒職場の健康診断や人間ドックでがん検診を実施している場合があります。お勤め先や加入している健康保険組合に確認を。
- それ以外の方、職場や加入健保でがん検診を実施していない場合
⇒自治体を実施するがん検診を受けることができます。市区町村にお問い合わせを。



がん予防・がん検診の推進についての情報はここで確認



検診は心も救います

検診に行かなかった方は、がんになったショックに加え、「検診を受けていたらもっと早期に見つかったかもしれない」という後悔を抱きがちです。

ご家族もまた、「どうしてもっと強く、検診に行けと言わなかったのだろう」と、自分を責めたりします。定期的にごがん検診を受けてください。



日本対がん協会「がん相談ホットライン」からのメッセージ